

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年2月16日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3891300166
事業所名	グループホームいしかわ
(ユニット名)	かえで
記入者(管理者)	
氏名	野村 雅敏
自己評価作成日	令和6年1月31日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ゆっくり・たのしく・いっしょに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・今よりもご家族様にアピールを実施して一人ずつでもご家族様の運営推進会議参加への輪が広がっているように、事業所からのアクションを送り続ける。 ⇒昨年度は家族代表が運営推進会議へ参加していなかった。今年度はご家族代表として1名メンバーに入って頂けた。しかし、コロナの影響やご家族様が多忙でなかなか参加は難しかった。ご利用者はターミナルで今年度亡くなられたが、引き続き今年度はメンバーになって頂けており、ターミナルの点など貴重な意見も聞くことができた。 ・新型コロナウイルス感染状況次第となるが、地域の活動にも利用者と一緒に参加しながら、また施設職員個人でも地域活動に参加する機会を増やしていく。 ⇒新型コロナウイルスが5類となったことで、法人内の規制も徐々に緩和されている。地域の太鼓台祭りに利用者とともに向かい、地域の方と触れ合う機会もできた。個人では、川の清掃ボランティアなど出来る限りではあるが参加している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人は医療や介護、福祉と、市内で事業を幅広く展開している。自然豊かな場所にある10年が経過した事業所は、大きな窓から四季折々の風景を眺めることができ、利用者の目を楽しませてくれている。建物の1階には保育園が併設され、日々子どものにぎやかな声が聞こえるほか、窓越しで交流を行うなど、利用者の楽しみの一つになっている。また、事業所には、各ユニットに3名ずつが利用する共用型サービスもあり、デイサービスの利用者がそのまま、入居に繋がることもある。さらに、病院や訪問看護などの医療連携体制が整い、希望する場合には、看取り支援が実施できるようになっている。加えて、一部制限は設けられているものの、感染対策が緩和され、利用者と一緒に買い物や散歩に出かけたり、ドライブをして季節の花を見に行ったり、事業所内の面会が可能となるなど、利用者にも喜ばれている。法人・事業所として、勉強会を実施して資格取得や職員のスキルアップに努めるとともに、管理者が気軽に職員の相談に応じるなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。訪問調査日には、電子カルテやスマホアプリのほか、紙媒体の業務日誌や一覧表を活用して、スムーズに情報共有を図る様子を確認することができた。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の関りを大切に、発言や行動から気付きを持ち、ご家族様からの意見も職員で共有して支援できるように取り組んでいる。	◎	/	◎	日々の関わりの中で、職員は利用者から思いや意向を聞くほか、発言や行動から思いを把握するように努めている。また、思いを言い表すことが困難な利用者には、表情やしぐさなどを観察し、思いをくみ取るよう努めている。さらに、面会に来られた家族のほか、キーパーソン以外の方と利用者の気持ちなどを話し合うこともある。把握した情報は、センター方式のアセスメントシートに記録し、職員間の情報共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日常より気付きを大切にし、家族から情報収集などを行い、本人視点での支援に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	キーパーソン以外の方が面会に来られた際は、必ず付き添うようにして、ご本人の近況を報告するとともに本人の気持ちについても話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人視点を大切に、フロア会議などで情報共有をするとともに、支援に活かせるように努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の関りの中で、本人視点を大切に支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前に、本人や家族、ケアマネなどから情報を収集している。	/	/	○	入居時に、管理者は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。把握した情報はアセスメントシートに記録し、職員間で共有をしている。さらに、入居後にも、日々の生活の中で、新たに得られた情報は、電子カルテのアプリ(トーク)を活用して職員間で共有を行うとともに、内容により、アセスメントシートの情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活から有する力の把握に努め、連携する訪問看護のリハビリ専門職の意見なども参考にし、職員内で情報を共有している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々処遇記録に生活を記録し、特変あればトークなども利用して情報共有を行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日常の関りから得られた情報やご家族の情報をもとに、フロアで検討する機会を持っている。	/	/	○	日々の関わりから得られた利用者の情報のほか、家族から聞き取った意見や意向を聞いたり、主治医や看護師、理学療法士、歯科衛生士などからの指示やアドバイスをもらったりすることができている。アセスメント情報や把握した情報をもとに、月1回のフロア会を活用して、より良いサービスが提供できるように職員間で検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	フロア会などで課題を抽出し、今後の支援に活かせるように取り組んでいる。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常より本人の思いを汲み取り、介護計画に反映できるように努めている。	/	/	/	介護計画の作成の際に、利用者や家族の意見や意向を確認するとともに、主治医や看護師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士などの専門職から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、月1回フロア会やカンファレンスを活用して、計画作成担当者を中心に意見を出し合いながら職員間で話し合い、意見を取りまとめた介護計画を作成している。また、出された意見のほか、利用者の意見を反映した介護計画となるように努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ご家族に意向確認を行うとともに、医師などの意見、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士などの指示や助言を頂き、カンファレンスを通して介護計画に反映させている。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	ご家族に確認を行い、医師などの意見、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士などの指示や助言を頂き、カンファレンスを通して介護計画に反映させている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会制限緩和や地域行事への参加はあるが、計画にはまだ反映できていない。現在は拡大傾向にあり慎重になっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画はいつでも職員は閲覧可能であり、カンファレンス内容も全員が把握できるようにしている。	/	/	/	◎ 事業所には電子カルテが導入され、職員は介護計画の内容を共有しやすくなっている。また、職員は各種記録をパソコンを活用して入力することができ、介護計画に沿ったサービスの実施の有無を記録に残し、職員間で状況確認を行うとともに、日々のより良い支援に繋げている。さらに、介護計画やアセスメントシートなどを綴った個別のファイルがスタッフルームに置かれ、職員はいつでも内容を確認できるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	フロア会などでカンファレンスを行い状況を確認しながら、今後の支援に繋がるようにモニタリングを行っている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規入居の場合は1ヶ月、3ヶ月で見直しを行い、以降6か月ごとに見直しを行っている。状態などが変化あればその都度見直しをしている。	/	/	/	◎ 入居後の間もない時期に、暫定の計画を作成して、1か月で介護計画の見直しをするとともに、その後には3か月に1回見直しをしている。それ以降には、計画の目標期間等に応じて、6か月に1回計画の見直しをしている。また、月1回のフロア会を活用して、利用者一人ひとりの現状の確認を行い、記録に残している。さらに、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、随時家族や主治医などに報告して意見をもらうなど、現状に即した介護計画を作成している。特に、看取り期に状態が変化した場合には、その日のうちに情報収集を行い、迅速な見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月フロア会を行い、カンファレンスを実施して現状を確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ターミナルなど状態に変化がある場合、再度関係者と協議を行い新しい計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に一度フロア会を開催して意見交換を行うとともに、日々の変化は都度トークを利用している。	/	/	/	◎ 月1回フロア会を実施し、職員間で課題解決などの話し合いをしている。多くの職員が会議に参加できるように、事前に管理者は日程の調整をしている。また、参加できない職員には、事前に議題を伝えて意見をもらうようになっている。話し合われた内容は、会議録を作成し、全ての職員に配布をしている。さらに、緊急対応が必要な場合には、その日の出勤職員で話し合って迅速に対応するとともに、電子カルテのトーク(アプリ)に入力し、職員間で情報共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	フロア会では計画作成担当者が司会となり、皆さんの意見が聞けるように配慮している。活発に意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は議事録を作成し確認をしている。また、特筆すべき事項はトークを利用して伝達して情報を共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	処遇記録やフロア日誌、トークを利用して全職員に伝達している。	○	/	/	◎ 日々申し送りを口頭で実施している。また、フロア日誌や処遇記録などを活用して、職員間の確実な情報伝達に繋げている。重要な伝達事項は、電子カルテのトークに入力し、全ての職員に迅速に伝達でき、確認した際に職員の既読を確認できるようになっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話や生活の中で思いを把握する事に努めている。	/	/	/	◎ 起床時間や着る服、レクリエーション、飲み物など、暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者を選択や自己決定をしてもらえるよう支援している。判断や理解が難しい利用者には、二者択一にして選択肢を絞ったり、飲み物のメニューを提示して、表情やしぐさを観察したりするなど、少しでも選択してもらえるような工夫をしている。また、利用者から「〇〇が食べたい」という希望が出された場合には、おやつに取り入れ、提供するなどの支援が行われている。訪問調査日には、体操の動画を見せたり、職員は一人ひとりの利用者に応じた声かけをしなが、楽しそうな表情で体操をする様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着る服など選択する場面で自分で選んで頂くが、難しい時は二者択一出来るように努めている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	集団生活に合わせたベースもあるが、起床や食事の時間をずらしたりしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	楽しい表情や嬉しい表情を引き出すように、コミュニケーションやレクを工夫している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	コミュニケーションを大切に、仕草や表情から思いを探るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	法人内や事業所内での研修を定期的実施し、人権や尊厳を守る大切さを学んでいる。	◎	◎	◎	定期的に、法人や事業所内の勉強会で人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員の理解促進に努めている。職員同士で相談や対応をする場合には、プライバシーに配慮して利用者を名前で呼ぶことをせず、居室の番号を用いて情報交換するなどの配慮が行われている。また、トイレの誘導は、可能な限り同性の職員が対応をしている。さらに、職員は居室を利用者専用のプライバシーのある場所と認識し、居室への入室の際には、職員はノックや声かけをして同意を得てから、入室をしている。訪問調査日には、リビングで過ごす利用者の居室のドアが開けられていたが、管理者から、「利用者や家族の了解を得て開けている。閉めたい利用者にはドアを閉めている」と話を聞くことができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	配慮して介助している。同性介助ができる場合は行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ出入りする場合は、声掛けやノックを行っている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法人内や事業所内での研修を定期的実施し、知識を深めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	野菜を頂いた際など、調理方法を聞いたり、皮を剥いて頂いたりし、感謝の言葉をかけるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、座席の考慮をしている。言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、職員が早期に間に入って、利用者の話を聞くなどの対応を行い、落ち着いた気分転換が図れるよう努めている。中には、怒りっぽい利用者もあり、職員は様子を察知してこまめに声をかけをしたり、他の利用者が立ち上がりやすい不安定な利用者を見守ったり、帰宅願望のある利用者には、「ご飯を食べてからにしたら」とやさしく声をかけるなど、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	帰宅願望がある方に優しく声掛けして頂くなど、利用者同士で支えあう場面がある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	座席には配慮している。トラブルになりそうだと感じた際には、すぐに職員が間に入り、お互いを傾聴し気分転換が図れるように努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに職員が間に入り、お互いを傾聴し気分転換が図れるように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に情報を収集し把握に努め、新たに知った情報は共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	毎日話していた近所の方の面会があったり、ご家族様が面会の際に一緒に訪問してくれたりしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ご家族の希望で大みそかに外出したり、買い物へ出かけたりしている。散髪へも一緒に出掛けた。	○	×	○	事業所前は坂道で、交通量が多いこともあり、天気の良い日には敷地内に出て外気浴や散歩を行い、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、職員は利用者と一緒に買い物や散髪に出かけたり、ドライブして初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけられるようになっていく。さらに、近隣の山で筍掘りや栗拾いに行くこともある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ご家族の意向にも沿いながら、外出支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	関係多職種とも話をしながら、状態変化に留意してケアに活かしている。	/	/	/	職員は、関係する多職種と情報交換を行い、利用者一人ひとりの心身機能などの情報をもちょうと、日々の支援の中で、具体的にできることやできそうなことを把握し、職員間で共有をしている。また、できることを自分でしてもらい、職員は手や口を出し過ぎないように注意を払い、見守りやできない部分のサポートをしている。さらに、散歩や体操、手伝いなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	多職種が連携しながら、現状の維持向上が図れるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯干しなど、なるべく出来る事は見守りの中で行えるように努めている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	事前調査や日常の生活から、その方の得意なことや役割、楽しみを把握するように努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、食器洗い、筍や栗の下処理、干し柿づくりなど、職員は利用者へ声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。手伝ってもらった後には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝え、張り合いや次回の支援にも繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者が活躍できる場面を作り、張り合いを持って生活できるように、出番を作れる支援を心がけている。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	地域的美容室を利用した際は、店主さんと話をしながらカットをお願いしている。また、髪の毛の結い方なども話ながら行っている。				地域的美容室に出かけて、利用者の好みの髪形に整えてもらうほか、家族に衣服を持参してもらい、好みや季節にあった服装を楽しめるよう支援している。また、食事の際に、エプロンは使用しておらず、食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には汚れを指摘することなく、さりげなく拭き取ったり、居室に移動して「こちらの服が似合いますよ」などと声をかけて、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持参してもらったり、以前の髪型を聞いて整えたりするなど、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	地域的美容室を利用した際は、店主さんと話をしながらカットをお願いしている。また、髪の毛の結い方なども話ながら行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族様が持参した衣類の中からも、好みや季節にあった洋服が着れるようにアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご家族様が持参した衣類の中からも、好みや季節にあった洋服が着れるようにアドバイスしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	指摘をするのではなくさりげなくカバーしている。また、傷んだ衣類などはご家族に話をするなど身だしなみが整う支援をしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	本人やご家族から要望があるか確認している。要望があれば応える。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の方もその方に合った服装や髪型ができるように考えて支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	管理栄養士や歯科衛生士とも連携し、食事形態を見直したりしている。				献立と食材は外部業者に委託し、業者から届けられた食材の湯煎や盛り付けなどをを行い、事業所内で炊飯や汁物を調理して、利用者に食事を提供している。朝食時はパン食で、パンの種類を選ぶようにしている。アレルギーの有無や嫌いな物を入居時に把握し、代替えの食材を用意することもできるが、現在アレルギーのある利用者はいない。刻みなどの利用者が食べやすい食事の形態にも対応をしている。利用者は、職員と一緒に飲み物やふりかけなどの買い物に行ったり、食後の食器洗いを手伝ったりしている。時には、荀堀りや栗拾いを行い、利用者と一緒に下ごしらえをして、ご飯に旬の食材を提供し、利用者に喜ばれている。湯飲みは使い慣れた物を持参してもらうほか、その他の食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策のため、食事の際に、職員は会話をしながら見守りやサポートを行い、利用者や別々の時間帯に食事を摂るようになっている。中には、少し離れたリビングで食事をしながら、利用者の様子を見守る職員もいる。リビングにいる利用者には、キッチンから調理の匂いや音が感じられ、食事前に、職員はメニューを伝えるなど、全ての利用者が食事を待ち遠しく思えるような工夫が行われている。さらに、利用者一人ひとりの食量や水分摂取量を日々の記録に残し、気になることは申し送り時などを活用して職員間で話し合うとともに、必要に応じて、多職種に相談を行い、状態が悪化しないように支援している。加えて、月1回系列法人の管理栄養士が食事の時間帯に来訪があり、利用者一人ひとりの食事の形態や咀嚼、嚥下状態の確認してもらうとともに、トロミのつけ方などを指導してもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食事は外注で施設で調理を行っている。頂きものの野菜などの調理は手伝って頂くことはある。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物と一緒に出掛けたり、台所で洗いをしたり支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前にアレルギーを含む聞き取り調査を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを等を取り入れている。	◎	周りに筍や栗ができるので、一緒に取ってきてご飯に入れるか調理するかを一緒に検討して食材として使用している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼嚥下状態にあわせて多職種で食事を検討している。排便の状態を把握しており、オリゴ糖入り牛乳を提供することもある。献立には彩も配慮されており、美味しそうに見える器の組み合わせを考えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	湯飲みは使い慣れた物を持参してもらい、共有の食器は温かみのある陶器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員は一緒に食べれていないが、さりげなく個別にサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	コミュニケーションを取りながら、美味しく食べられるように支援している。		○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事や水分の摂取量をチェックして把握している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食摂取量や水分摂取量が継続して少ない方には多職種に意見を聞くなどしている。工夫しても食事が低下している方は、訪問診療にて医師より助言を頂き栄養補助飲料が処方されることもある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は外注であるが、管理栄養士の意見を聞きながら近隣で採った旬の野菜を活かして提供できるようにしている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夜勤で調理器具などの消毒を実施している。食材は外注で届き、すぐ冷蔵庫などで保管して衛生管理に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士による助言もあり、口腔ケアの重要性を認識している。				事業所には、週2回歯科衛生士の訪問があり、口腔内の確認や洗浄をしてもらうほか、助言やアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。月2回歯科衛生士に、全ての利用者の口腔内の健康状態を確認してもらい状態を把握するとともに、異常や不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療に繋げている。また、毎食後に、職員は声をかけ、洗面台に移動して利用者は歯磨きを実施している。職員は、磨き残しなどの利用者ができない部分のサポートのほか、歯間ブラシなどを使用して介助をすることもある。さらに、義歯は夕食後に預かり、洗浄剤に浸けるなどの清潔保持に努めている。加えて、歯科衛生士の助言を受けて、舌苔が付着しやすい利用者の舌の汚れを取り除いたり、舌の運動を促したりするなど、介護計画の目標やサービス内容に取り入れて、実践をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	歯科衛生士による口腔内の健康状態を把握し、必要時には歯科医の訪問診療を受けることもある。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔衛生管理体制加算を算定しており、歯科衛生士から助言や指導を受けて実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後は必ず口腔ケアを行っている。歯科衛生士からも助言や指導を頂いている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	口腔内の不具合については、歯科衛生士が確認し、必要な場合は歯科医の訪問診療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	重度利用でもトイレでの排泄を基本とし、立位困難な場合でも2人介助でトイレへ座れるように支援している。適切なオムツ使用についても個別にカンファレンスで話し合っている。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。立位を取ることが難しい利用者にも、2人体制で職員が介助を行い、可能な限り、トイレに座って排泄できるように取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声かけをするほか、タイミングを見てトイレ誘導などの支援を行うことで、紙おむつからリハビリパンツに変更することのできた利用者もいる。さらに、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品が使用できるように職員間で話し合い、利用者や家族に相談をしながら、適切な用品を選択できるようにしている。加えて、トイレに座る習慣を大切にしながら支援に努めるほか、体操や散歩、外気浴を取り入れたり、水分補給や食物繊維を摂取してもらったりするなどの工夫を行い、利用者の自然排便を促す取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排便に関して日々記録をして把握している。また、医師や看護からも助言を頂いている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便を記録してパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	重度利用でもトイレでの排泄を基本とし、立位困難な場合でも2人介助でトイレへ座れるように支援している。適切なオムツ使用についても個別にカンファレンスで話し合っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	医師や看護にも助言を頂きながら要因を探り、カンファレンスなどで検討してケアに取り入れている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排尿を記録しパターンを把握する事で、早めの声掛けを行ったり、夜間間に合わない方にはポータブルを検討している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄パターンを把握し、どの時間ほどの種類が良いかなどを本人や家族とも話し合って購入して支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中や夜間で変えたりと個別に合わせてケアをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	牛乳やバナナを提供したり、体操を取り入れたりしている。また、トイレに座る習慣を大切に支援している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	予定は組んであるが、いつでも変更できるようにしている。	◎		○	週2回、利用者は入浴することができる。入浴を拒む利用者には、無理強いをせずに、日にちや時間帯を変更して声かけをするなどの工夫をしている。また、可能な限り、職員の同性介助を行うとともに、利用者の希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度などに対応したり、冬至にゆずを浮かべたりするなど、会話をしながらゆったりと入浴が楽しめるよう支援している。さらに、頭皮がかさついている利用者には、看護師と相談して、シャンプーを替えるなどの対応をすることもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	個別浴槽であり、ゆったりと介助者と会話をしながら気分よく入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	会話をしながら出来ない部分を手伝い、マンツーマンで安全安心な入浴ができるように心がけている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いをせず、拒否があれば時間や日程を変更している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い健康状態を確認して見極めている。入浴後は水分補給をして頂き状態把握に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個別に把握しているが、日によって変化があり、完全に把握するには至っていない。	/	/	/	各ユニットで2名ずつの利用者が、眠剤を内服しているものの、職員は日中の過ごし方や支援内容を工夫することで、なるべく薬に頼らず、夜間に安眠できるよう支援している。中には、寝つきの悪い利用者もあり、無理に居室に誘導することなく、夜間にリビングでテレビを見たり、会話をしたりするなど、職員は眠くなるタイミングを見計らい、誘導をするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠リズムを把握し、昼夜逆転しないように日中の活動量を増やすなど楽しく過ごせるように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬剤などは医師と相談しており、安易に薬に頼ることないようにしている。日中の過ごし方を工夫し、昼夜逆転にならないように支援している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は個室であり、本人の希望や身体状況に応じて休息は取れるように支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族と画面共有をして通話をしたり、方法を伝えてサポートしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	意向があればそれに応じて支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	そういった希望や意向が少ない状態であるが、居室が個室であり、静かに気兼ねなく電話ができるように配慮は行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	必ず本人の元には届けているが返事を書くことは難しい。代わりにご家族へ電話やメールをすることはある。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご利用者がご家族へ電話をかけることについては了承頂いている。本人と話したい場合は面会に来られることが多い。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分のお金を自分で使うことの意味が、個人の尊厳に津軽と理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	散髪や買い物へ行くこともあるが、日常的ではない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人や家族と所持方法や使い道は話し合っている。施設金庫で預かっており、必要時に使っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と所持方法や使い道は話し合っている。施設金庫で預かっており、必要時に使っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に管理方法や報告の仕方の説明を行い同意して頂いている。また、毎月出納と領収書をご家族に送付して確認いただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	面会時などに現状を報告し、色々な意見を聞いている。ご家族とご利用者の時間を大切に、意向に沿って断ることなく許可している。	◎	/	◎	利用者や家族から出された要望に、管理者は、可能な限り柔軟に対応するように心がけた支援に取り組んでおり、買い物や散髪、受診などの同行支援が行われている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関にベンチや自動販売機を設置しており、散歩の方やお遍路さんが休憩できるようになっている。1Fは保育園があり、地域の場となって賑やかである。	◎	△	◎	事業所のある建物には保育園が併設され、保護者や園児が頻繁に来訪をしている。1階にある事業所専用の玄関前には、たくさんのお花の鉢植えが並べられ、自動販売機やベンチが設置されるなど、四国八十八か所のお遍路さんの休憩場所にも活用されている。また、訪問調査日には、1階にある保育園の窓ガラスに、雪だるまや鬼などの季節の飾りつけが行われ、親しみやすい雰囲気が感じられた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	フロアや廊下には畳のベンチを置き、ちょっとした話をしたり休憩したりできるスペースとしている。また、家族より寄贈があったグランドピアノと一緒に歌ったり交流の場となっている。	◎	◎	◎	広い共用空間には、テーブルやソファ、畳ベンチなどが設置され、ぬいぐるみが並べられるなど、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。廊下には、絵画のほか、季節の飾りつけや行事の写真が貼られている。また、リビングにある大きな窓からは、四季折々の自然豊かな眺めを見ることができる。リビングには、メダカや金魚が飼育され、利用者はえさをやることを楽しみにしている。さらに、採光が入り明るいリビングは、ブラインドで明るさを調整するほか、清掃が行き届き、空気清浄機が設置されるなど、不快な臭いや音もせず、快適な空間となっている。加えて、中庭では、夏にゴーヤが育てられ、日よけのカーテンのように成長する様子を楽しんだり、プランターで旬の野菜を育てたりすることができている。感染対策もあり、1階にある保育園児との交流は恣意しに留まっているが、様々な刺激を生活空間の中に取り入れながら、利用者が居心地良く過ごせるような工夫が行われている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	陽の光が強い日はブラインドで調整し、感染対策もあらかじめに掃除している。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	調理の臭いで今日のご飯は何かと話題になったり、食欲が増す環境で生活できるように支援している。窓が大きく、自然の光や近隣の山々の自然が目に入り、外出したいという意欲に繋がっている。				◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	テイルームで仲間同士が交流でき、廊下も広く畳ベンチなどで思い思いに自由に過ごせる環境にある。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご家族と協力の元、使い慣れた筆筒や家族の写真、手紙など利用者の馴染の物を居室に置いて、居心地よく生活できるようにしている。	○		◎	居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられているほか、掛け時計や絵画が飾られている。利用者は使い慣れた衣装ケースやテレビを配置したり、家族写真などを飾ったりするなど、居心地の良い空間づくりをしている。また、整理整頓された居室は、定期的に清掃も行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	壁には手すりを設置し、付き添いは必要であっても歩行できる環境にある。またトイレ内も手すりを連続して設置している。廊下は車椅子でも自力走行ができるように十分な幅をもたせている。			◎	壁やトイレに手すりが設置され、廊下に車いすで自走できる十分な動線が確保されるなど、利用者は安心安全に移動することができる。また、トイレの場所が分かりやすいように、廊下に「トイレ」の表示を付したり、トイレのドアに「トイレ・べんじょ」などの数種類の表記をしたりするなどの工夫をしている。さらに、居室の入り口には、習字が得意な職員が書いた木の表札を掛けている。利用者の認知状態に合わせて、個別の衣装ケースの引き出しに、「くつした肌着」などのラベルを貼り、中に入っている物が分かりやすいようにするなど、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。リビングには、利用者の手が届く場所に、新聞や雑誌が置かれている。	
		b	利用者の活動意欲を醸発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌はすぐ取れる位置に置いている。また、洗濯干しがいっでも干せるように物干しを置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	全ての職員が理解している。自由に近隣の方や家族が入れるように玄関は開放しているが、ユニット玄関は防犯も兼ねてロック式である。事務所や台所からユニット間は開放しており、自由に行き来をしている。	◎	◎	○	日中に玄関の鍵をかけておらず、民家から離れた山間部に事業所があることから、夜間は防犯のために施錠をしている。ユニットの入り口に鍵がかけられているが、ユニット間を利用者は自由に行き来できるようにしている。また、職員は勉強会などを通して、鍵をかけることの弊害を理解しており、外出願望のある利用者には、寄り添って話を聞いたり、一緒に屋外に出て散歩をしたりするなど、少しでも不安をなくすような対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時にご家族には施錠箇所や時間については理解を得ている。山間部に位置しており、傾斜も強く、防犯や安全面から施錠しているが、いつでも外へ付き添って出られる状況であり、玄関も希望があればいつでも開錠可能である。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居前の面談記録や医師からの健康診断書などを職員間で共有し把握している。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々健康チェックを行い記録をしている。気になる点があれば、いつでも連携する病院や訪問看護へ連絡している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	母体が医療機関であり、また連携する訪問看護とは24時間いつでも連絡ができる体制を取っており、気軽に相談できる体制にある。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医や疾病によっては他の病院にも継続して受診できるようにしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診の際には家族に連絡し結果を報告している。状態によっては家族も同席し、一緒に結果を聞いている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の意見を聞き合っている。	◎	受診の際には家族に連絡し結果を報告している。状態によっては家族も同席し、一緒に結果を聞いている。家族が受診に対応した場合はお互いに情報交換ができるようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時はサマリーを病院に提出するとともに、グループ内ICTを活用し情報交換を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	グループ内ICTを活用して、画像や動画を含めて密に情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週3回の定期訪問があり、気付いたことを話して助言を頂いている。そこから早期受診に繋がっている。月2回の訪問診療も受けて相談ができる体制にある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	グループ内ICTなども活用し、24時間いつでも気軽に相談できる体制にある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	週3回の定期訪問があり、気付いたことを話して助言を頂いている。そこから早期受診に繋がっている。月2回の訪問診療も受けて相談ができる体制にある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	受診時頂く処方説明を確認し、服薬による変化などがあれば、訪問看護や医師と相談している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	ダブルチェックを行うなど確実に服薬できるように支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用などに留意してケアにあたり、確認をするとともに変化があれば、医師や訪問看護へ連絡相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に看取りケアについての指針を説明して同意を得ている。また、いつでも変更が可能である旨を伝えて意向確認を行っており、職員間で情報共有している。				事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。利用者が重度化した場合には、家族の意向を再度確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。医療法人ということもあり、医師や看護師、理学療法士、管理栄養士などの医療連携体制が整い、希望する場合には看取り支援が可能となっている。看取り期には、居室内での家族の付き添いを可能としている。また、職員教育も徹底し、看取り介護の不安軽減のほか、知識や技術の習得に努めている。職員の聞き取りから、「看取りは大変というよりも、良かったなと思ってもらえるようなケアをすることを心がけて、安心して最後を迎えられるようなお手伝いをしたい」との思いを聞くことができた。さらに、看取り後に玄関で見送りをする際に、休日の職員も自発的に出勤するなど、全ての職員で見送りが行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	看護の助言を職員間で共有し、医師とも連携して利用者の状態や家族の意向、支援内容を情報交換している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	これまでの看取りのケースを反省し、職員の思いを調査して看取りに対する不安を把握している。看護も一緒に不安が解消できるように話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	重度化に関する指針を入居時に説明して同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ご家族には状態を説明し、できれば付き添いをお願いし直接医師や看護から説明を受けられるようにしている。また、今後に備えて医師や看護と連携し、具体的な助言や指示を頂いている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	出来る限り直接医師や看護からの説明を受けられるように調整し、状態などに応じてご家族とコミュニケーションを取っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染委員が中心となり、予防や対策についての勉強会を実施している。また、法人主催の勉強会にも参加している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症対策マニュアルが整備されており、手順に沿って対応が出来るように勉強会や個別に訓練を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	法人内感染症対策委員会が地域の最新情報などを入手して情報共有を行っている。また、それをもとに新聞を作成し、職員が見えるところに貼っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがいを徹底し、手指消毒を実施している。玄関にも消毒液を常備し、協力して頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族状況を把握したうえで、外出支援や病院受診などを協力いただいている。家族と外出した際には、どうだったか様子をお聞きして情報共有を行っている。	/	/	/	コロナが5類に移行したものの、地域での感染拡大などもあり、事業所内で、利用者と家族が一緒に参加した行事の開催の自粛をしている。今後、管理者は「感染状況を見計らいながら、コロナ禍以前に実施していた行事や家族会を再開したい」と考えている。毎月、家族には利用者の近況報告に、写真や行事予定表などを添えて送付をしている。事業所の運営上の事柄や出来事を、毎月送付する行事予定表を活用して一緒に報告するとともに、内容により、電話連絡を行うこともある。また、管理者と職員は、家族が意見や要望を伝えたり、気軽に相談したりできるように、面会時に職員から声をかけて、コミュニケーションを図るなど、家族との良好な関係づくりに努めている。家族等との面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	行事案内を毎月実施している。一緒に地方祭に現地待ち合わせを行った方も居た。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事予定表にコメントを記載し、現状をお伝えするとともに写真を一緒に送付している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族双方がより良い関係を築けるように努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事予定表を送付するとともに、内容によっては直接ご家族へ連絡をしている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や体調変化時には転倒の可能性や急変などの起こり得ることを説明し、面会時や連絡時には現状の様子をお伝えして、理解して頂けるように努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	ご家族とは関係が良好であり、面会時などはコミュニケーションを取るように努めている。また、居室へ宿泊された方も居た。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に重要事項を説明し同意を得ている。重要事項に変更がある場合も、文書などで説明し同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入居時に意向調査を行っており、看取りの説明やその他施設への転居などについても説明を随時行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立当初より住民説明会を開催したり理解を得ている。また、運営推進会議にも参加頂き、説明を行っている。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	山間部にあるため近隣住民は少ないが、1F保育園の園児やグループ内施設とは交流している。また、地域のお祭りに参加させて頂いた。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	お祭りに参加することで地域の方と触れ合い、事業所を知って頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣住民が少ないため、お遅路さんの休憩やトイレに立ち寄ったことはある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	山間部であり、日常の付き合いはないが、1F保育園の園児や家族、先生とは気軽に声を掛け合っている。地域に出向いた際は、運営推進委員など関わりを持っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	感染症対策もあり、なかなかボランティアは依頼できていないが、地方祭では、たくさんの方に声をかけて頂いた。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域のお祭り、近隣施設の祭りに呼んで頂き参加した。商店へ買い物へ行ったり、美容室へ外出支援を行ったりしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	毎回参加は促しているが、全員の参加は都合もあり難しいようである。地域の代表の方は積極的に参加して下さっている。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、書面の運営推進会議の開催が続いていたが、令和5年6月の会議から、対面形式の会議が開催できるようになっている。会議は、基本的に奇数月の最終金曜日の13時30分からユニット内のリビングで、家族や市担当者、民生委員、地域の代表者などの参加を得て開催をしている。会議は、利用者の様子を見ながら、利用者の状況や行事、サービスの実際を報告するとともに、サービス評価結果や目標達成の取り組み状況などを報告し、参加者と意見交換をしている。また、会議で出された意見は、職員間で共有してより良いケアに繋げている。さらには、議事録はファイルに綴じられ、自由に閲覧できるようにしている。今後は、全ての家族に参加しやすい日時などの聞き取りを行い、より多くの家族が参加してもらえるような工夫が行われることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	議事録を作成し、結果を閲覧可能な状態にしている。また、会議内では取り組みなどを報告し、頂いた意見は職員で共有してケアに繋げている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	メンバーの増減はないが、なるべく参加しやすい日程と時間を工夫しているが、思うように参加は難しいようである。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各ユニットに理念を掲示し、日ごろから共通認識をもってケアに取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットに理念を掲示し、入居時にも説明を行っている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修の案内があれば、希望を確認して希望者は参加できるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、月1回程度事業所に来訪し、利用者や職員に気軽に声をかけることができている。法人として、職員にストレスチェックを実施するとともに、福利厚生等を活用して、食事を開催してゲームを楽しむなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、法人内外の勉強会に希望する職員は参加することができるほか、法人内で資格取得に向けた勉強会を実施するなど、職員の育成や定着、スキルアップに努めている。定期的に事業所内でも勉強会を開催し、職員が交替して講師を務めることもできている。定期的に、管理者は職員との個別面談を実施して、意向や就業状況などを確認するとともに、日頃からこまめに職員に声をかけて、気軽に相談に応じることができている。職員の聞き取りから、「管理者に相談や意見を伝えやすく、働きやすい環境である」などの声を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設内に年間計画があり、スキルアップできるようにしている。また、法人内でも資格取得に向けた勉強会も開催されている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度があり、各職員の自己評価や向上心を確認して、年2回のフィードバックを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響で現在はできていないが、グループ内事業所と交流会をしたり、相互研修を企画していた。県の地域密着型サービス協会に加入している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人でストレスチェックを行い、該当者には医師や人事担当者による面談が受けられる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的に高齢者虐待についての勉強会を開催し、法人でも勉強会が開催され参加して理解を深めている。	/	/	◎	定期的に、法人や事業所内で勉強会を実施し、高齢者虐待の防止などを学び、職員の理解促進に努めている。不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者に報告を行い、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。また、管理者はフロア会を活用して、重要な案件や内容を伝えるとともに、必要に応じて、職員の個人名を出すことなく、不適切な言動などの話し合いをしている。さらに、全て職員は「立ったらダメ」というようなスピーチロックになる声かけをしないように心がけ、意識した言動に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度話し合い、改善できるように努めている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務時の表情や会話にも注意し、なるべく日常会話も含めて話しやすい関係性が築けるように努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に身体拘束適正化についての勉強会を開催し、法人でも勉強会が開催され参加して理解を深めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	具体的に状況に照らして検討し、カンファレンスやフロア会などで話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	家族から要望はない。あれば、話し合って理解を求めていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	高齢者の尊厳などは勉強会で理解を深めているが、成年後見制度などについては理解は不十分である。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	成年後見制度をご家族が申し込んだ方がおられ、司法書士事務所と連携を図った。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	リスクのマニュアルがあり、いつでも閲覧が可能である。また、消防に出前講座を依頼し、救命救急対応についての講座を受けた。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急救命講座を受けたが、全員が実践力があるとは言えず、継続的に実施していきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書を作成し職員間で周知している。また内容をカンファレンスし再発防止策を検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	面ユニットで起こり得るリスクについては共有して取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルを作成し、常時閲覧可能である。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルがあり対応は可能であるが、苦情を寄せられ対応したことはない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応する体制はあるが、事例はない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入居時に、施設内外の相談窓口を説明し、運営推進会議でも意見を頂けるようにしている。また、玄関口にご意見箱を設置している。	○		◎	入居時に、事業所内外に相談窓口が設けられ、玄関に意見箱を設置していることを、利用者や家族に周知している。また、日々の暮らしの中で、利用者から「○○が食べたい」という希望が多く出され、職員は、買い物に出かけ、おやつの際に提供をするなど、可能な限り対応をしている。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望を聞くとともに、出された意見には迅速に対応するとともに、必要に応じて、解決に向けて丁寧な対応をしている。令和5年2月には、サービス向上のための利用者アンケートを実施し、家族から出された意見に対応を行い、毎月利用者の写真を送付するように努めている。さらに、管理者は職員との個別面談を実施するほか、日々の職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員から出された意見や要望を否定せず、「どうしたら可能か」をフロア会の中で話し合うなど、職員が一丸となって、より良いサービスの提供に努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には公的機関の窓口を案内している。それ以外では情報提供はできていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	法人幹部が施設に入って意見を直接聞いたり、管理者より伝えて面談の機会を作ったりしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	各職員と意見交換を随時行い、ケアの質などについて話し合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	フロア会などで自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、フロア会の中で、全ての職員から意見を聞くとともに、フロアリーダーと計画作成担当者等が相談を行い、管理者が取りまとめて作成をしている。サービスの評価結果や目標達成の取り組み状況は、運営推進会議の中で報告するとともに、参加メンバーや家族に報告をしている。また、会議の参加メンバーにモニターを呼びかけて、目標達成の取り組み状況の確認をして、意見をもらうことができている。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を通して事業所の課題を明確にし、意識統一を図るなど今後の取り組みに活かしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族には手紙で報告を行っている。運営推進委員メンバーには書面を見て頂き報告を行っている。また、閲覧可能としている。	○	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で、計画の成果を確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害に対応したマニュアルを作成している。常時閲覧が可能である。	/	/	/	年2回消防署の協力を得て、利用者と一緒に、昼夜や火災などを想定した避難訓練を実施している。日中を想定した訓練は、1階にある保育園と合同訓練を実施している。また、事業所では、水や食料品などの備蓄品を用意している。コロナ禍や感染対策が続き、家族の来訪する機会が少なかったこともあり、利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、家族や地域住民、運営推進会議の参加メンバーに呼びかけて、合同訓練を実施したり、避難訓練の様子の写真を家族に送付したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示するなど、家族に安心安全な取り組みを理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間と想定して避難訓練を年間計画を立てて実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消防設備の定期的な点検を受けている。備蓄については消費期限などが切れないように訓練時に確認している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署職員に訓練に立ち会って頂き、助言や相談などの話が出る機会を設けている。	×	△	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	1F保育園とは合同で日中の訓練を行ったが、近隣施設などを含めた屋外避難などはできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	グループとしては認知症サポーター養成研修なども行っているが、事業所単体では行っていない。	/	/	/	管理者は、デイサービスを利用している家族から相談を受けるほか、住民から電話相談が寄せられることもあり、快く対応をしている。また、月2回市行政のほか、他の介護サービス事業所に足を運び、管理者等は情報交換などを行うことができているが、感染対策が続いたこともあり、地域活動の協働までには至っていない。さらに、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかん会」を結成している。今後は、笑いヨガや記憶力アップに繋がるボランティアの受け入れ協力を予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	デイに來られている地域の家族とは送迎時などに相談支援を行っている。	/	/	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	立地条件が悪く、依頼がなく場所は提供できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナの影響で現在はできていないが、インターンシップの受け入れを行っていた。依頼はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所や市役所などに月2回ほど定期的に足を運んで、困っている高齢者などの情報は共有しているが、協働で地域活動は行っていない。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年2月16日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3891300166
事業所名	グループホームいしかわ
(ユニット名)	もみじ
記入者(管理者)	
氏名	野村 雅敏
自己評価作成日	令和6年1月31日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ゆっくり・たのしく・いっしょに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・今よりもご家族様にアピールを実施して一人ずつでもご家族様の運営推進会議参加への輪が広がっているように、事業所からのアクションを送り続ける。 ⇒昨年度は家族代表が運営推進会議へ参加していなかった。今年度はご家族代表として1名メンバーに入って頂けた。しかし、コロナの影響やご家族様が多忙でなかなか参加は難しかった。ご利用者はターミナルで今年度亡くなられたが、引き続き今年度はメンバーになって頂けており、ターミナルの点など貴重な意見も聞くことができた。 ・新型コロナウイルス感染状況次第となるが、地域の活動にも利用者と一緒に参加しながら、また施設職員個人でも地域活動に参加する機会を増やしていく。 ⇒新型コロナウイルスが5類となったことで、法人内の規制も徐々に緩和されている。地域の太鼓台祭りに利用者とともに向かい、地域の方と触れ合う機会もできた。個人では、川の清掃ボランティアなど出来る限りではあるが参加している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人は医療や介護、福祉と、市内で事業を幅広く展開している。自然豊かな場所にある10年が経過した事業所は、大きな窓から四季折々の風景を眺めることができ、利用者の目を楽しませてくれている。建物の1階には保育園が併設され、日々子どものにぎやかな声が聞こえるほか、窓越しで交流を行うなど、利用者の楽しみの一つになっている。また、事業所には、各ユニットに3名ずつが利用する共用型サービスもあり、デイサービスの利用者がそのまま、入居に繋がることもある。さらに、病院や訪問看護などの医療連携体制が整い、希望する場合には、看取り支援が実施できるようになっている。加えて、一部制限は設けられているものの、感染対策が緩和され、利用者と一緒に買い物や散歩に出かけたり、ドライブをして季節の花を見に行ったり、事業所内の面会が可能となるなど、利用者にも喜ばれている。法人・事業所として、勉強会を実施して資格取得や職員のスキルアップに努めるとともに、管理者が気軽に職員の相談に応じるなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。訪問調査日には、電子カルテやスマホアプリのほか、紙媒体の業務日誌や一覧表を活用して、スムーズに情報共有を図る様子を確認することができた。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の関りを大切に、発言や行動から気付きを持ち、ご家族様からの意見も職員で共有して支援できるように取り組んでいる。	◎	/	◎	日々の関わりの中で、職員は利用者から思いや意向を聞くほか、発言や行動から思いを把握するように努めている。また、思いを言い表すことが困難な利用者には、表情やしぐさなどを観察し、思いをくみ取るよう努めている。さらに、面会に来られた家族のほか、キーパーソン以外の方と利用者の気持ちなどを話し合うこともある。把握した情報は、センター方式のアセスメントシートに記録し、職員間の情報共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日常より気付きを大切にし、家族から情報収集などを行い、本人視点での支援に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	キーパーソン以外の方が面会に来られた際は、必ず付き添うようにして、ご本人の近況を報告するとともに本人の気持ちについても話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人視点を大切に、フロア会議などで情報共有をするとともに、支援に活かせるように努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の関りの中で、本人視点を大切に支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前に、本人や家族、ケアマネなどから情報を収集している。	/	/	○	入居時に、管理者は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。把握した情報はアセスメントシートに記録し、職員間で共有をしている。さらに、入居後も、日々の生活の中で、新たに得られた情報は、電子カルテのアプリ(トーク)を活用して職員間で共有を行うとともに、内容により、アセスメントシートの情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活から有する力の把握に努め、連携する訪問看護のリハビリ専門職の意見なども参考にし、職員内で情報を共有している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々処遇記録に生活を記録し、特変あればトークなども利用して情報共有を行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日常の関りから得られた情報やご家族の情報をもとに、フロアで検討する機会を持っている。	/	/	○	日々の関わりから得られた利用者の情報のほか、家族から聞き取った意見や意向を聞いたり、主治医や看護師、理学療法士、歯科衛生士などからの指示やアドバイスをもらったりすることができている。アセスメント情報や把握した情報をもとに、月1回のフロア会を活用して、より良いサービスが提供できるように職員間で検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	フロア会などで課題を抽出し、今後の支援に活かせるように取り組んでいる。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常より本人の思いを汲み取り、介護計画に反映できるように努めている。	/	/	/	介護計画の作成の際に、利用者や家族の意見や意向を確認するとともに、主治医や看護師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士などの専門職から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、月1回フロア会やカンファレンスを活用して、計画作成担当者を中心に意見を出し合いながら職員間で話し合い、意見を取りまとめた介護計画を作成している。また、出された意見のほか、利用者の意見を反映した介護計画となるように努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ご家族に意向確認を行うとともに、医師などの意見、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士などの指示や助言を頂き、カンファレンスを通して介護計画に反映させている。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	ご家族に確認を行い、医師などの意見、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士などの指示や助言を頂き、カンファレンスを通して介護計画に反映させている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会制限緩和や地域行事への参加はあるが、計画にはまだ反映できていない。現在は拡大傾向にあり慎重になっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画はいつでも職員は閲覧可能であり、カンファレンス内容も全員が把握できるようにしている。	/	/	/	◎ 事業所には電子カルテが導入され、職員は介護計画の内容を共有しやすくなっている。また、職員は各種記録をパソコンを活用して入力することができ、介護計画に沿ったサービスの実施の有無を記録に残し、職員間で状況確認を行うとともに、日々のより良い支援に繋げている。さらに、介護計画やアセスメントシートなどを綴った個別のファイルがスタッフルームに置かれ、職員はいつでも内容を確認できるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	フロア会などでカンファレンスを行い状況を確認しながら、今後の支援に繋がるようにモニタリングを行っている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規入居の場合は1ヶ月、3ヶ月で見直しを行い、以降6か月ごとに見直しを行っている。状態などが変化あればその都度見直しをしている。	/	/	/	◎ 入居後の間もない時期に、暫定の計画を作成して、1か月で介護計画の見直しをするとともに、その後には3か月に1回見直しをしている。それ以降には、計画の目標期間等に応じて、6か月に1回計画の見直しをしている。また、月1回のフロア会を活用して、利用者一人ひとりの現状の確認を行い、記録に残している。さらに、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、随時家族や主治医などに報告して意見をもらうなど、現状に即した介護計画を作成している。特に、看取り期に状態が変化した場合には、その日のうちに情報収集を行い、迅速な見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月フロア会を行い、カンファレンスを実施して現状を確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ターミナルなど状態に変化がある場合、再度関係者と協議を行い新しい計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に一度フロア会を開催して意見交換を行うとともに、日々の変化は都度トークを利用している。	/	/	/	◎ 月1回フロア会を実施し、職員間で課題解決などの話し合いをしている。多くの職員が会議に参加できるように、事前に管理者は日程の調整をしている。また、参加できない職員には、事前に議題を伝えて意見をもらうようになっている。話し合われた内容は、会議録を作成し、全ての職員に配布をしている。さらに、緊急対応が必要な場合には、その日の出勤職員で話し合って迅速に対応するとともに、電子カルテのトーク(アプリ)に入力し、職員間で情報共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	フロア会では計画作成担当者が司会となり、皆さんの意見が聞けるように配慮している。活発に意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は議事録を作成し確認をしている。また、特筆すべき事項はトークを利用して伝達して情報を共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	処遇記録やフロア日誌、トークを利用して全職員に伝達している。	○	/	/	◎ 日々申し送りを口頭で実施している。また、フロア日誌や処遇記録などを活用して、職員間の確実な情報伝達に繋げている。重要な伝達事項は、電子カルテのトークに入力し、全ての職員に迅速に伝達でき、確認した際に職員の既読を確認できるようになっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話や生活の中で思いを把握する事に努めている。	/	/	/	◎ 起床時間や着る服、レクリエーション、飲み物など、暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者を選択や自己決定をしてもらえるよう支援している。判断や理解が難しい利用者には、二者択一にして選択肢を絞ったり、飲み物のメニューを提示して、表情やしぐさを観察したりするなど、少しでも選択してもらえるような工夫をしている。また、利用者から「〇〇が食べたい」という希望が出された場合には、おやつに取り入れ、提供するなどの支援が行われている。訪問調査日には、体操の動画を見せたり、職員は一人ひとりの利用者に応じた声かけをしなが、楽しそうな表情で体操をする様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着る服など選択する場面で自分で選んで頂くが、難しい時は二者択一出来るように努めている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	集団生活に合わせたベースもあるが、起床や食事の時間をずらしたりしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	楽しい表情や嬉しい表情を引き出せるように、コミュニケーションやレクを工夫している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	コミュニケーションを大切に、仕草や表情から思いを探るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	法人内や事業所内での研修を定期的実施し、人権や尊厳を守る大切さを学んでいる。	◎	◎	◎	◎ 定期的に、法人や事業所内の勉強会で人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員の理解促進に努めている。職員同士で相談や対応をする場合には、プライバシーに配慮して利用者を名前で呼ぶことをせず、居室の番号を用いて情報交換するなどの配慮が行われている。また、トイレの誘導は、可能な限り同性の職員が対応をしている。さらに、職員は居室を利用者専用のプライバシーのある場所と認識し、居室への入室の際には、職員はノックや声かけをして同意を得てから、入室をしている。訪問調査日には、リビングで過ごす利用者の居室のドアが開けられていたが、管理者から、「利用者や家族の了解を得て開けている。閉めたい利用者にはドアを閉めている」と話を聞くことができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	配慮して介助している。同性介助ができる場合は行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ出入りする場合は、声掛けやノックを行っている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法人内や事業所内での研修を定期的実施し、知識を深めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	野菜を頂いた際など、調理方法を聞いたり、皮を剥いて頂いたりし、感謝の言葉をかけるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、座席の考慮をしている。言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、職員が早期に間に入って、利用者の話を聞くなどの対応を行い、落ち着いた気分転換が図れるよう努めている。中には、怒りっぽい利用者もあり、職員は様子を察知してこまめに声をかけたり、他の利用者が立ち上がりやすい不安定な利用者を見守ったり、帰宅願望のある利用者には、「ご飯を食べてからにしたら」とやさしく声をかけるなど、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	帰宅願望がある方に優しく声掛けて頂くなど、利用者同士で支えあう場面がある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	座席には配慮している。トラブルになりそうだと感じた際には、すぐに職員が間に入り、お互いを傾聴し気分転換が図れるように努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに職員が間に入り、お互いを傾聴し気分転換が図れるように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に情報を収集し把握に努め、新たに知った情報は共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	毎日話していた近所の方の面会があったり、ご家族様が面会の際に一緒に訪問してくれたりしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ご家族の希望で大みそかに外出したり、買い物へ出かけたりしている。散髪へも一緒に出掛けた。	○	×	○	事業所前は坂道で、交通量が多いこともあり、天気の良い日には敷地内に出て外気浴や散歩を行い、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、職員は利用者と一緒に買い物や散髪に出かけたり、ドライブして初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけられるようになっていく。さらに、近隣の山で筍掘りや栗拾いに行くこともある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ご家族の意向にも沿いながら、外出支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	関係多職種とも話をしながら、状態変化に留意してケアに活かしている。	/	/	/	職員は、関係する多職種と情報交換を行い、利用者一人ひとりの心身機能などの情報をもちょうと、日々の支援の中で、具体的にできることやできそうなことを把握し、職員間で共有をしている。また、できることを自分でしてもらい、職員は手や口を出し過ぎないように注意を払い、見守りやできない部分のサポートをしている。さらに、散歩や体操、手伝いなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	多職種が連携しながら、現状の維持向上が図れるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯干しなど、なるべく出来る事は見守りの中で行えるように努めている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	事前調査や日常の生活から、その方の得意なことや役割、楽しみを把握するように努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、食器洗い、筍や栗の下処理、干し柿づくりなど、職員は利用者へ声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。手伝ってもらった後には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝え、張り合いや次回の支援にも繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者が活躍できる場面を作り、張り合いを持って生活できるように、出番を作れる支援を心がけている。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	地域的美容室を利用した際は、店主さんと話をしながらカットをお願いしている。また、髪の毛の結い方なども話ながら行っている。				地域的美容室に出かけて、利用者の好みの髪形に整えてもらうほか、家族に衣服を持参してもらい、好みや季節にあった服装を楽しめるよう支援している。また、食事の際に、エプロンは使用しておらず、食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には汚れを指摘することなく、さりげなく拭き取ったり、居室に移動して「こちらの服が似合いますよ」などと声をかけて、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持参してもらったり、以前の髪型を聞いて整えたりするなど、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	地域的美容室を利用した際は、店主さんと話をしながらカットをお願いしている。また、髪の毛の結い方なども話ながら行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族様が持参した衣類の中からも、好みや季節にあった洋服が着れるようにアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご家族様が持参した衣類の中からも、好みや季節にあった洋服が着れるようにアドバイスしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	指摘をするのではなくさりげなくカバーしている。また、傷んだ衣類などはご家族に話をするなど身だしなみが整う支援をしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	本人やご家族から要望があるか確認している。要望があれば応える。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の方もその方に合った服装や髪型ができるように考えて支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	管理栄養士や歯科衛生士とも連携し、食事形態を見直したりしている。				献立と食材は外部業者に委託し、業者から届けられた食材の湯煎や盛り付けなどをを行い、事業所内で炊飯や汁物を調理して、利用者に食事を提供している。朝食時はパン食で、パンの種類を選ぶようにしている。アレルギーの有無や嫌いな物を入居時に把握し、代替えの食材を用意することもできるが、現在アレルギーのある利用者はいない。飲みなどの利用者が食べやすい食事の形態にも対応をしている。利用者は、職員と一緒に飲み物やふりかけなどの買い物に行ったり、食後の食器洗いを手伝ったりしている。時には、荀堀りや栗拾いを行い、利用者と一緒に下ごしらえをして、ご飯に旬の食材を提供し、利用者に喜ばれている。湯飲みは使い慣れた物を持参してもらうほか、その他の食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策のため、食事の際に、職員は会話をしながら見守りやサポートを行い、利用者や別々の時間帯に食事を摂るようになっている。中には、少し離れたリビングで食事をしながら、利用者の様子を見守る職員もいる。リビングにいる利用者には、キッチンから調理の匂いや音が感じられ、食事前に、職員はメニューを伝えるなど、全ての利用者が食事を待ち遠しく思えるような工夫が行われている。さらに、利用者一人ひとりの食量や水分摂取量を日々の記録に残し、気になることは申し送り時などを活用して職員間で話し合うとともに、必要に応じて、多職種に相談を行い、状態が悪化しないように支援している。加えて、月1回系列法人の管理栄養士が食事の時間帯に来訪があり、利用者一人ひとりの食事の形態や咀嚼、嚥下状態の確認してもらうとともに、トロミのつけ方などを指導してもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食事は外注で施設で調理を行っている。頂きものの野菜などの調理は手伝って頂くことはある。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物と一緒に出掛けたり、台所で洗いをしたり支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前にアレルギーを含む聞き取り調査を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを等を取り入れている。	◎	周りに筍や栗ができるので、一緒に取ってきてご飯に入れるか調理するかを一緒に検討して食材として使用している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼嚥下状態にあわせて多職種で食事を検討している。排便の状態を把握しており、オリゴ糖入り牛乳を提供することもある。献立には彩も配慮されており、美味しそうに見える器の組み合わせを考えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	湯飲みは使い慣れた物を持参してもらい、共有の食器は温かみのある陶器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員は一緒に食べれていないが、さりげなく個別にサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	コミュニケーションを取りながら、美味しく食べられるように支援している。		○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事や水分の摂取量をチェックして把握している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食摂取量や水分摂取量が継続して少ない方には多職種に意見を聞くなどしている。工夫しても食事が低下している方は、訪問診療にて医師より助言を頂き栄養補助飲料が処方されることもある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は外注であるが、管理栄養士の意見を聞きながら近隣で採った旬の野菜を活かして提供できるようにしている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夜勤で調理器具などの消毒を実施している。食材は外注で届き、すぐ冷蔵庫などで保管して衛生管理に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士による助言もあり、口腔ケアの重要性を認識している。				事業所には、週2回歯科衛生士の訪問があり、口腔内の確認や洗浄をしてもらうほか、助言やアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。月2回歯科衛生士に、全ての利用者の口腔内の健康状態を確認してもらい状態を把握するとともに、異常や不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療に繋げている。また、毎食後に、職員は声をかけ、洗面台に移動して利用者は歯磨きを実施している。職員は、磨き残しなどの利用者ができない部分のサポートのほか、歯間ブラシなどを使用して介助をすることもある。さらに、義歯は夕食後に預かり、洗浄剤に浸けるなどの清潔保持に努めている。加えて、歯科衛生士の助言を受けて、舌苔が付着しやすい利用者の舌の汚れを取り除いたり、舌の運動を促したりするなど、介護計画の目標やサービス内容に取り入れて、実践をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	歯科衛生士による口腔内の健康状態を把握し、必要時には歯科医の訪問診療を受けることもある。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔衛生管理体制加算を算定しており、歯科衛生士から助言や指導を受けて実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後は必ず口腔ケアを行っている。歯科衛生士からも助言や指導を頂いている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	口腔内の不具合については、歯科衛生士が確認し、必要な場合は歯科医の訪問診療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	重度利用でもトイレでの排泄を基本とし、立位困難な場合でも2人介助でトイレへ座れるように支援している。適切なオムツ使用についても個別にカンファレンスで話し合っている。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。立位を取ることが難しい利用者にも、2人体制で職員が介助を行い、可能な限り、トイレに座って排泄できるように取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声かけをするほか、タイミングを見てトイレ誘導などの支援を行うことで、紙おむつからリハビリパンツに変更することのできた利用者もいる。さらに、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品が使用できるように職員間で話し合い、利用者や家族に相談をしながら、適切な用品を選択できるようにしている。加えて、トイレに座る習慣を大切に支援に努めるほか、体操や散歩、外気浴を取り入れたり、水分補給や食物繊維を摂取してもらったりするなどの工夫を行い、利用者の自然排便を促す取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排便に関して日々記録をして把握している。また、医師や看護からも助言を頂いている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便を記録してパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	重度利用でもトイレでの排泄を基本とし、立位困難な場合でも2人介助でトイレへ座れるように支援している。適切なオムツ使用についても個別にカンファレンスで話し合っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	医師や看護にも助言を頂きながら要因を探り、カンファレンスなどで検討してケアに取り入れている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排尿を記録しパターンを把握する事で、早めの声掛けを行ったり、夜間間に合わない方にはポータブルを検討している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄パターンを把握し、どの時間ほどの種類が良いかなどを本人や家族とも話し合って購入して支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中や夜間で変えたりと個別に合わせてケアをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	牛乳やバナナを提供したり、体操を取り入れたりしている。また、トイレに座る習慣を大切に支援している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	予定は組んであるが、いつでも変更できるようにしている。	◎		○	週2回、利用者は入浴することができる。入浴を拒む利用者には、無理強いをせずに、日にちや時間帯を変更して声かけをするなどの工夫をしている。また、可能な限り、職員の同性介助を行うとともに、利用者の希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度などに対応したり、冬至にゆずを浮かべたりするなど、会話をしながらゆったりと入浴が楽しめるよう支援している。さらに、頭皮がかさついている利用者には、看護師と相談して、シャンプーを替えるなどの対応をすることもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	個別浴槽であり、ゆったりと介助者と会話をしながら気分よく入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	会話をしながら出来ない部分を手伝い、マンツーマンで安全安心な入浴ができるように心がけている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いをせず、拒否があれば時間や日程を変更している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い健康状態を確認して見極めている。入浴後は水分補給をして頂き状態把握に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個別に把握しているが、日によって変化があり、完全に把握するには至っていない。				各ユニットで2名ずつの利用者が、眠剤を内服しているものの、職員は日中の過ごし方や支援内容を工夫することで、なるべく薬に頼らず、夜間に安眠できるよう支援している。中には、寝つきの悪い利用者もあり、無理に居室に誘導することなく、夜間にリビングでテレビを見たり、会話をしたりするなど、職員は眠くなるタイミングを見計らい、誘導をするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠リズムを把握し、昼夜逆転しないように日中の活動量を増やすなど楽しく過ごせるように支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬剤などは医師と相談しており、安易に薬に頼ることないようにしている。日中の過ごし方を工夫し、昼夜逆転にならないように支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は個室であり、本人の希望や身体状況に応じて休息は取れるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族と画面共有をして通話をしたり、方法を伝えてサポートしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	意向があればそれに応じて支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	そういった希望や意向が少ない状態であるが、居室が個室であり、静かに気兼ねなく電話ができるように配慮は行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	必ず本人の元には届けているが返事を書くことは難しい。代わりにご家族へ電話やメールをすることはある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご利用者がご家族へ電話をかけることについては了承頂いている。本人と話したい場合は面会に来られることが多い。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分のお金を自分で使うことの意味が、個人の尊厳に津軽と理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	散髪や買い物へ行くこともあるが、日常的ではない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人や家族と所持方法や使い道は話し合っている。施設金庫で預かっており、必要時に使っている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と所持方法や使い道は話し合っている。施設金庫で預かっており、必要時に使っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に管理方法や報告の仕方の説明を行い同意して頂いている。また、毎月出納と領収書をご家族に送付して確認いただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	面会時などに現状を報告し、色々な意見を聞いている。ご家族とご利用者の時間を大切に、意向に沿って断ることなく許可している。	◎		◎	利用者や家族から出された要望に、管理者は、可能な限り柔軟に対応するように心がけた支援に取り組んでおり、買い物や散髪、受診などの同行支援が行われている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関にベンチや自動販売機を設置しており、散歩の方やお遍路さんが休憩できるようになっている。1Fは保育園があり、地域の場となって賑やかである。	◎	△	◎	事業所のある建物には保育園が併設され、保護者や園児が頻繁に来訪をしている。1階にある事業所専用の玄関前には、たくさんのお花の鉢植えが並べられ、自動販売機やベンチが設置されるなど、四国八十八か所のお遍路さんの休憩場所にも活用されている。また、訪問調査日には、1階にある保育園の窓ガラスに、雪だるまや鬼などの季節の飾りつけが行われ、親しみやすい雰囲気が感じられた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	フロアや廊下には畳のベンチを置き、ちょっとした話をしたり休憩したりできるスペースとしている。また、家族より寄贈があったグランドピアノも一緒に取ったり交流の場となっている。	◎	◎	◎	広い共用空間には、テーブルやソファ、畳ベンチなどが設置され、ぬいぐるみが並べられるなど、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。廊下には、絵画のほか、季節の飾りつけや行事の写真が貼られている。また、リビングにある大きな窓からは、四季折々の自然豊かな眺めを見ることができる。リビングには、メダカや金魚が飼育され、利用者はえさをやることを楽しみにしている。さらに、採光が入り明るいリビングは、ブラインドで明るさを調整するほか、清掃が行き届き、空気清浄機が設置されるなど、不快な臭いや音もせず、快適な空間となっている。加えて、中庭では、夏にゴーヤが育てられ、日よけのカーテンのように成長する様子を楽しんだり、プランターで旬の野菜を育てたりすることができている。感染対策もあり、1階にある保育園児との交流は恣意に留まっているが、様々な刺激を生活空間の中に取り入れながら、利用者が居心地良く過ごせるような工夫が行われている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	陽の光が強い日はブラインドで調整し、感染対策もあらかじめに掃除している。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	調理の臭いで今日のご飯は何かと話題になったり、食欲が増す環境で生活できるように支援している。窓が大きく、自然の光や近隣の山々の自然が目に入り、外出したいという意欲に繋がっている。				◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	テイルームで仲間同士が交流でき、廊下も広く畳ベンチなどで思い思いに自由に過ごせる環境にある。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご家族と協力の元、使い慣れた筆筒や家族の写真、手紙など利用者の馴染の物を居室に置いて、居心地よく生活できるようにしている。	○		◎	居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられているほか、掛け時計や絵画が飾られている。利用者は使い慣れた衣装ケースやテレビを配置したり、家族写真などを飾ったりするなど、居心地の良い空間づくりをしている。また、整理整頓された居室は、定期的に清掃も行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	壁には手すりを設置し、付き添いは必要であっても歩行できる環境にある。またトイレ内も手すりを連続して設置している。廊下は車椅子でも自力走行ができるように十分な幅をもたせている。			◎	壁やトイレに手すりが設置され、廊下に車いすで自走できる十分な動線が確保されるなど、利用者は安心安全に移動することができる。また、トイレの場所が分かりやすいように、廊下に「トイレ」の表示を付したり、トイレのドアに「トイレ・ベンジよ」などの数種類の表記をしたりするなどの工夫をしている。さらに、居室の入り口には、習字が得意な職員が書いた木の表札を掛けている。利用者の認知状態に合わせて、個別の衣装ケースの引き出しに、「くつした肌着」などのラベルを貼り、中に入っている物が分かりやすいようにするなど、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。リビングには、利用者の手が届く場所に、新聞や雑誌が置かれている。	
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌はすぐ取れる位置に置いている。また、洗濯干しがいっつも干せるように物干しを置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	全ての職員が理解している。自由に近隣の方や家族が入れるように玄関は開放しているが、ユニット玄関は防犯も兼ねてロック式である。事務所や台所からユニット間は開放しており、自由に行き来をしている。	◎	◎	○	日中に玄関の鍵をかけておらず、民家から離れた山間部に事業所があることから、夜間は防犯のために施錠をしている。ユニットの入り口に鍵がかけられているが、ユニット間を利用者は自由に行き来できるようにしている。また、職員は勉強会などを通して、鍵をかけることの弊害を理解しており、外出願望のある利用者には、寄り添って話を聞いたり、一緒に屋外に出て散歩をしたりするなど、少しでも不安をなくすような対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時にご家族には施錠箇所や時間については理解を得ている。山間部に位置しており、傾斜も強く、防犯や安全面から施錠しているが、いっつも外へ付き添って出られる状況であり、玄関も希望があればいつでも開錠可能である。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居前の面談記録や医師からの健康診断書などを職員間で共有し把握している。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々健康チェックを行い記録をしている。気になる点があれば、いつでも連携する病院や訪問看護へ連絡している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	母体が医療機関であり、また連携する訪問看護とは24時間いつでも連絡ができる体制を取っており、気軽に相談できる体制にある。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医や疾病によっては他の病院にも継続して受診できるようにしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診の際には家族に連絡し結果を報告している。状態によっては家族も同席し、一緒に結果を聞いている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の意見を聞き合っている。	◎	受診の際には家族に連絡し結果を報告している。状態によっては家族も同席し、一緒に結果を聞いている。家族が受診に対応した場合はお互いに情報交換ができるようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時はサマリーを病院に提出するとともに、グループ内ICTを活用し情報交換を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	グループ内ICTを活用して、画像や動画を含めて密に情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週3回の定期訪問があり、気付いたことを話して助言を頂いている。そこから早期受診に繋がっている。月2回の訪問診療も受けて相談ができる体制にある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	グループ内ICTなども活用し、24時間いつでも気軽に相談できる体制にある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	週3回の定期訪問があり、気付いたことを話して助言を頂いている。そこから早期受診に繋がっている。月2回の訪問診療も受けて相談ができる体制にある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	受診時頂く処方説明を確認し、服薬による変化などがあれば、訪問看護や医師と相談している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	ダブルチェックを行うなど確実に服薬できるように支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用などに留意してケアにあたり、確認をするとともに変化があれば、医師や訪問看護へ連絡相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に看取りケアについての指針を説明して同意を得ている。また、いつでも変更が可能である旨を伝えて意向確認を行っており、職員間で情報共有している。				事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。利用者が重度化した場合には、家族の意向を再度確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。医療法人ということもあり、医師や看護師、理学療法士、管理栄養士などの医療連携体制が整い、希望する場合には看取り支援が可能となっている。看取り期には、居室内での家族の付き添いを可能としている。また、職員教育も徹底し、看取り介護の不安軽減のほか、知識や技術の習得に努めている。職員の聞き取りから、「看取りは大変というよりも、良かったなと思ってもらえるようなケアをすることが心がけて、安心して最後を迎えられるようなお手伝いをしたい」との思いを聞くことができた。さらに、看取り後に玄関で見送りをする際に、休日の職員も自発的に出勤するなど、全ての職員で見送りが行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	看護の助言を職員間で共有し、医師とも連携して利用者の状態や家族の意向、支援内容を情報交換している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	これまでの看取りのケースを反省し、職員の思いを調査して看取りに対する不安を把握している。看護も一緒に不安が解消できるように話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	重度化に関する指針を入居時に説明して同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ご家族には状態を説明し、できれば付き添いをお願いし直接医師や看護から説明を受けられるようにしている。また、今後に備えて医師や看護と連携し、具体的な助言や指示を頂いている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	出来る限り直接医師や看護からの説明を受けられるように調整し、状態などに応じてご家族とコミュニケーションを取っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染委員が中心となり、予防や対策についての勉強会を実施している。また、法人主催の勉強会にも参加している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症対策マニュアルが整備されており、手順に沿って対応が出来るように勉強会や個別に訓練を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	法人内感染症対策委員会が地域の最新情報などを入手して情報共有を行っている。また、それをもとに新聞を作成し、職員が見えるところに貼っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいを徹底し、手指消毒を実施している。玄関にも消毒液を常備し、協力して頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族状況を把握したうえで、外出支援や病院受診などを協力いただいている。家族と外出した際には、どうだったか様子をお聞きして情報共有を行っている。	/	/	/	コロナが5類に移行したものの、地域での感染拡大などもあり、事業所内で、利用者と家族が一緒に参加した行事の開催の自粛をしている。今後、管理者は「感染状況を見計らいながら、コロナ禍以前に実施していた行事や家族会を再開したい」と考えている。毎月、家族には利用者の近況報告に、写真や行事予定表などを添えて送付をしている。事業所の運営上の事柄や出来事を、毎月送付する行事予定表を活用して一緒に報告するとともに、内容により、電話連絡を行うこともある。また、管理者と職員は、家族が意見や要望を伝えたり、気軽に相談したりできるように、面会時に職員から声をかけて、コミュニケーションを図るなど、家族との良好な関係づくりに努めている。家族等との面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	行事案内を毎月実施している。一緒に地方祭に現地待ち合わせを行った方も居た。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事予定表にコメントを記載し、現状をお伝えするとともに写真を一緒に送付している。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族双方がより良い関係を築けるように努めている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事予定表を送付するとともに、内容によっては直接ご家族へ連絡をしている。	◎	/	/		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や体調変化時には転倒の可能性や急変などの起こり得ることを説明し、面会時や連絡時には現状の様子をお伝えして、理解して頂けるように努めている。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	ご家族とは関係が良好であり、面会時などはコミュニケーションを取るよう努めている。また、居室へ宿泊された方も居た。	/	/	/		◎
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に重要事項を説明し同意を得ている。重要事項に変更がある場合も、文書などで説明し同意を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入居時に意向調査を行っており、看取りの説明やその他施設への転居などについても説明を随時行っている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立当初より住民説明会を開催したり理解を得ている。また、運営推進会議にも参加頂き、説明を行っている。	/	○	/	法人・事業所として、地域の自治会に加入し、職員は川の清掃などの地域活動に参加協力をしている。令和5年の秋の地方祭では、近隣の介護施設の駐車場で行われた太鼓台を見に行くことができ、利用者の喜ぶ笑顔を見ることができた。また、建物の1階にある保育所の園児と交流することができる。近隣住民と交流できる機会は少ないものの、利用者と一緒に買い物や散髪に出かけた際に、挨拶や会話を交わすことができている。さらに、市行政のふれあい相談員の来訪が再開され、利用者の声に耳を傾けてもらうことができている。加えて、玄関前には、自動販売機やベンチが設置されるなど、四国八十八か所のお遍路さんの休憩場所にも活用されている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	山間部にあるため近隣住民は少ないが、1F保育園の園児やグループ内施設とは交流している。また、地域のお祭りに参加させて頂いた。	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	お祭りに参加することで地域の方と触れ合い、事業所を知って頂いている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣住民が少ないため、お遍路さんの休憩やトイレに立ち寄ったことはある。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	山間部であり、日常の付き合いはないが、1F保育園の園児や家族、先生とは気軽に声を掛け合っている。地域に出向いた際は、運営推進委員など関わりを持っている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	感染症対策もあり、なかなかボランティアは依頼できていないが、地方祭では、たくさんの方に声をかけて頂いた。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域のお祭り、近隣施設の祭りに呼んで頂き参加した。商店へ買い物へ行ったり、美容室へ外出支援を行ったりしている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	毎回参加は促しているが、全員の参加は都合もあり難しいようである。地域の代表の方は積極的に参加して下さっている。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、書面の運営推進会議の開催が続いていたが、令和5年6月の会議から、対面形式の会議が開催できるようになっている。会議は、基本的に奇数月の最終金曜日の13時30分からユニット内のリビングで、家族や市担当者、民生委員、地域の代表者などの参加を得て開催をしている。会議は、利用者の様子を見ながら、利用者の状況や行事、サービスの実際を報告するとともに、サービス評価結果や目標達成の取り組み状況などを報告し、参加者と意見交換をしている。また、会議で出された意見は、職員間で共有してより良いケアに繋げている。さらには、議事録はファイルに綴じられ、自由に閲覧できるようにしている。今後は、全ての家族に参加しやすい日時などの聞き取りを行い、より多くの家族が参加してもらえるような工夫が行われることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	議事録を作成し、結果を閲覧可能な状態にしている。また、会議内では取り組みなどを報告し、頂いた意見は職員で共有してケアに繋げている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	メンバーの増減はないが、なるべく参加しやすい日程と時間を工夫しているが、思うように参加は難しいようである。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各ユニットに理念を掲示し、日ごろから共通認識をもってケアに取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットに理念を掲示し、入居時にも説明を行っている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修の案内があれば、希望を確認して希望者は参加できるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、月1回程度事業所に来訪し、利用者や職員に気軽に声をかけることができている。法人として、職員にストレスチェックを実施するとともに、福利厚生等を活用して、食事を開催してゲームを楽しむなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、法人内外の勉強会に希望する職員は参加することができるほか、法人内で資格取得に向けた勉強会を実施するなど、職員の育成や定着、スキルアップに努めている。定期的に事業所内でも勉強会を開催し、職員が交替して講師を務めることもできている。定期的に、管理者は職員との個別面談を実施して、意向や就業状況などを確認するとともに、日頃からこまめに職員に声をかけて、気軽に相談に応じることができている。職員の聞き取りから、「管理者に相談や意見を伝えやすく、働きやすい環境である」などの声を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設内に年間計画があり、スキルアップできるようにしている。また、法人内でも資格取得に向けた勉強会も開催されている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度があり、各職員の自己評価や向上心を確認して、年2回のフィードバックを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響で現在はできていないが、グループ内事業所と交流会をしたり、相互研修を企画していた。県の地域密着型サービス協会に加入している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人でストレスチェックを行い、該当者には医師や人事担当者による面談が受けられる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的に高齢者虐待についての勉強会を開催し、法人でも勉強会が開催され参加して理解を深めている。	/	/	◎	定期的に、法人や事業所内で勉強会を実施し、高齢者虐待の防止などを学び、職員の理解促進に努めている。不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者に報告を行い、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。また、管理者はフロア会を活用して、重要な案件や内容を伝えるとともに、必要に応じて、職員の個人名を出すことなく、不適切な言動などの話し合いをしている。さらに、全て職員は「立ったらダメ」というようなスピーチロックになる声かけをしらないように心がけ、意識した言動に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度話し合い、改善できるように努めている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務時の表情や会話にも注意し、なるべく日常会話も含めて話しやすい関係性が築けるように努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に身体拘束適正化についての勉強会を開催し、法人でも勉強会が開催され参加して理解を深めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	具体的に状況に照らして検討し、カンファレンスやフロア会などで話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	家族から要望はない。あれば、話し合って理解を求めていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	高齢者の尊厳などは勉強会で理解を深めているが、成年後見制度などについては理解は不十分である。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	成年後見制度をご家族が申し込んだ方がおられ、司法書士事務所と連携を図った。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	リスクのマニュアルがあり、いつでも閲覧が可能である。また、消防に出前講座を依頼し、救命救急対応についての講座を受けた。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急救命講座を受けたが、全員が実践力があるとは言えず、継続的に実施していきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書を作成し職員間で周知している。また内容をカンファレンスし再発防止策を検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	面ユニットで起こり得るリスクについては共有して取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルを作成し、常時閲覧可能である。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルがあり対応は可能であるが、苦情を寄せられ対応したことはない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応する体制はあるが、事例はない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入居時に、施設内外の相談窓口を説明し、運営推進会議でも意見を頂けるようにしている。また、玄関口にご意見箱を設置している。	○		◎	入居時に、事業所内外に相談窓口が設けられ、玄関に意見箱を設置していることを、利用者や家族に周知している。また、日々の暮らしの中で、利用者から「○○が食べたい」という希望が多く出され、職員は、買い物に出かけ、おやつの際に提供をするなど、可能な限り対応をしている。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望を聞くとともに、出された意見には迅速に対応するとともに、必要に応じて、解決に向けて丁寧な対応をしている。令和5年2月には、サービス向上のための利用者アンケートを実施し、家族から出された意見に対応を行い、毎月利用者の写真を送付するように努めている。さらに、管理者は職員との個別面談を実施するほか、日々の職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員から出された意見や要望を否定せず、「どうしたら可能か」をフロア会の中で話し合うなど、職員が一丸となって、より良いサービスの提供に努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には公的機関の窓口を案内している。それ以外では情報提供はできていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	法人幹部が施設に入って意見を直接聞いたり、管理者より伝えて面談の機会を作ったりしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	各職員と意見交換を随時行い、ケアの質などについて話し合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	フロア会などで自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、フロア会の中で、全ての職員から意見を聞くとともに、フロアリーダーと計画作成担当者等が相談を行い、管理者が取りまとめて作成をしている。サービスの評価結果や目標達成の取り組み状況は、運営推進会議の中で報告するとともに、参加メンバーや家族に報告をしている。また、会議の参加メンバーにモニターを呼びかけて、目標達成の取り組み状況の確認をして、意見をもらうことができている。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を通して事業所の課題を明確にし、意識統一を図るなど今後の取り組みに活かしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族には手紙で報告を行っている。運営推進委員メンバーには書面を見て頂き報告を行っている。また、閲覧可能としている。	○	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で、計画の成果を確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害に対応したマニュアルを作成している。常時閲覧が可能である。	/	/	/	年2回消防署の協力を得て、利用者と一緒に、昼夜や火災などを想定した避難訓練を実施している。日中を想定した訓練は、1階にある保育園と合同訓練を実施している。また、事業所では、水や食料品などの備蓄品を用意している。コロナ禍や感染対策が続き、家族の来訪する機会が少なかったこともあり、利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、家族や地域住民、運営推進会議の参加メンバーに呼びかけて、合同訓練を実施したり、避難訓練の様子の写真を家族に送付したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示するなど、家族に安心安全な取り組みを理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間と想定して避難訓練を年間計画を立てて実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消防設備の定期的な点検を受けている。備蓄については消費期限などが切れないように訓練時に確認している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署職員に訓練に立ち会って頂き、助言や相談などの話が出る機会を設けている。	×	△	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	1F保育園とは合同で日中の訓練を行ったが、近隣施設などを含めた屋外避難などはできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	グループとしては認知症サポーター養成研修なども行っているが、事業所単体では行っていない。	/	/	/	管理者は、デイサービスを利用している家族から相談を受けるほか、住民から電話相談が寄せられることもあり、快く対応をしている。また、月2回市行政のほか、他の介護サービス事業所に足を運び、管理者等は情報交換などを行うことができているが、感染対策が続いたこともあり、地域活動の協働までには至っていない。さらに、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかん会」を結成している。今後は、笑いヨガや記憶力アップに繋がるボランティアの受け入れ協力を予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	デイに來られている地域の家族とは送迎時などに相談支援を行っている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	立地条件が悪く、依頼がなく場所は提供できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナの影響で現在はできていないが、インターンシップの受け入れを行っていた。依頼はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所や市役所などに月2回ほど定期的に足を運んで、困っている高齢者などの情報は共有しているが、協働で地域活動は行っていない。	/	/	○	